最後まで楽しかった！OSGS プログラム

小野湧雅

約半年間参加させていただいた OSGS プログラムも、成果発表会が終了したことですべての内容が終了しました。これまでのプログラムにて行われてきたこと、そしてこれまでで印象に残っていることなどについてお伝えしたいと思います。このプログラムについて、ご理解いただくための一助になれば幸いです。

① 授業について

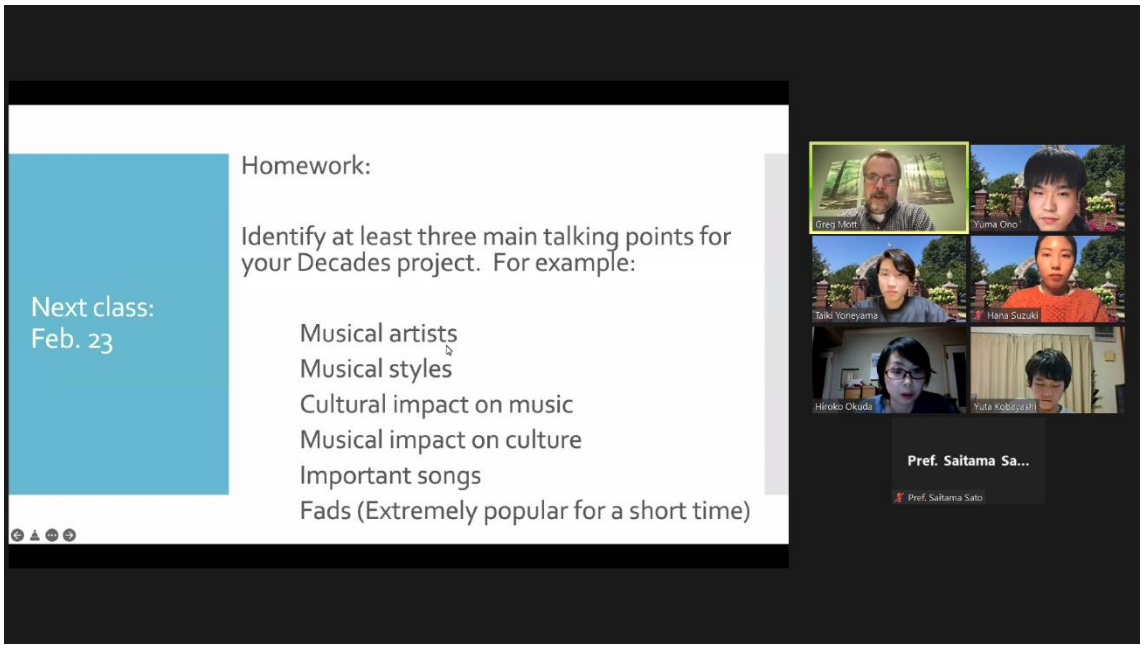
このプログラムのそもそもの目的は、『「英語で発信する力」を日本にいながら身に付けることを目指す』ことですので、講義においても、ネイティブの方に伝わりやすいスライドや資料の作り方、そして快適に聞いてもらえるような話し方について学びました。

これらの能力を身に付けるために講義で行われたことについて、いくつかご紹介します。まず、授業開始前に近況報告を行いました。講義は 2 週間に 1 度でしたので、その間にあった出来事を全体で共有します。メンバーの誕生日にはみんなでお祝いするなど、ラフにコミュニケーションをとることができる時間でした。

また、ある授業では、無音の映画へのアテレコを行いました。日本語とは違い難しい点もありましたが、その分「英語での状況説明力」は大きく身につきました。

そして、日本とアメリカの文化の違いについての話をしました。モット先生に、日本の慣習について掲載されているサイトを共有いただき、それぞれの慣習の真偽を我々が英語で説明する、というアクティビティでした。私たちも、日本で当たり前と考えていたことが海外では当たり前でないと気付くことができ、コミュニケーションをとる相手方の文化を理解することができました。

これらの、工夫に富んだアクティビティ、そしてモット先生のお人柄の良さもあり、強く興味を持ちながら講義に参加することができ、得るものも非常に多くありました。



授業の様子。みんな緊張感のある面持ちで臨んでいました。

② シンポジウムについて

本プログラムを通じての全体のテーマである「50 年間の日本とアメリカの音楽から見る、文化の違い」について調べてまとめ、 ZOOM を通じて、フィンドレー大学でのシンポジウムに参加しました。

埼玉のメンバーは、フィンドレー大学のメンバーと 1 対 1 でペアを組み、それぞれのペアが、1950 年代担当、60 年代担当…のように 10 年間を担当し、その中で、埼玉のメンバーは当時のアメリカの音楽について、フィンドレーのメンバーは当時の日本の音楽について調べました。

調べていく過程のなかで、本プログラムならではの特徴だな、と感じたことがあります。それは、ペアのメンバーの家族や友人などから当時の音楽についての情報などを得ることが推奨されていた点です。やはりこのプログラムにおいては、学術的な確かさはさることながら、英語でのコミュニケーションをとることに重点が置かれており、期間中はある種英語漬けの日々でした。こういった環境下ということも、自身の英語力向上につながったのではないか、と感じています。

シンポジウムは現地の昼頃に行われたため、私たちメンバーは夜 2 時ごろスタートという形となり、遅寝の私には平気でしたが驚きもありました。ですがそういった中でも、聞きに来てくれた学生から肯定的なコメントをたくさんもらうことができたようで、本当にうれしかったです。

この、大勢のネイティブの方の前でスピーチをする経験というのは、オンラインであって

も英語での発信力に自信をつけることに重要な役割を果たしてくれた、と感じています。

③ 親善大使の活動について

プログラムの参加者として選んでいただいた際に委嘱いただける、親善大使としての活動についてご説明します。インスタグラム等を通じて、埼玉の魅力を内外にお届けすることが仕事です。

ふじみの国際交流センターに伺った際は、埼玉で暮らしている外国人の方の生活を応援する活動を見学しました。実際に日本語を教える体験もさせていただいたのですが、言葉の壁があっても、しっかりと向き合うことによって分かり合うことができる、ということを学ぶことができました。この学びを生かし、例えば日本語がわからずに困っている方々のお手伝いなどを、積極的にしたいと考えています。

④ OSGS プログラムの説明会について

先日、ZOOM を通して、このプログラムに興味をお持ちの方などに向けて、概要などを説明するイベントが開かれました。その際に、実際に参加しているメンバーとして、参加する中で感じたことや特徴的な点、メリットや必要な英語力についての説明を行いました。

メンバー内で一人のみ参加ということで、私が参加させていただきました。国際課の方のご説明ののち、国際課の方からの質問にお答えする形でお話しさせていただきました。私としては、英語で話すことにあまり自信のない方にも積極的に挑戦していただきたい、ということをお伝えしたかったため、参加者の方々に伝わっていたらうれしいです。

説明会後、国際課の方に「実際に参加されている方の話が聞けて良かった」という感想をいただいていたと伺い、嬉しく感じました。

⑤ 成果発表会について

加えて、このプログラムに興味をお持ちの方や県の関係者の方々などに向けて、これまでの成果の発表を行いました。プログラムとしては本当に最後のイベントとなるため、かなり気合を入れて準備を行ったと自負しています。

発表会においては、メンバー内で分担し、今まで行ってきたことをまとめて英語で紹介しました。準備段階では、各メンバーに起きた印象的なことや、より効果的にこのプログラムを紹介するための方策等をすり合わせるため、頻繁に連絡を取り合いながら、このメンバーでの最後の活動に向けて取り組みました。

このように、埼玉県に関する皆さんに対して、OSGS プログラムを周知することに非常に熱心になることができたのも、やはりこのプログラム自体や関係者の皆様、そしてメンバー

とのつながりなどが、素晴らしいものであったためであると考えています。

⑥ おわりに

いざ終わってみて今感じることは、「本当にあっという間の半年間だった」です。オンラインで、現地と埼玉の 5 人ずつのメンバーで一つのものを作り上げ、それを発表していくという経験は、このプログラムでないとできなかったことでしょう。次にこのプログラムの募集があった際には、皆様に自信をもって応募をお勧めさせていただきます。

また、プログラムの中でつながりを作ることができました。国際課の方の計らいでプログラム開始前にメンバーで集まることができ、そのおかげでオンラインだけでは難しい距離感のつかみ方などを知ることができたと感じています。ペアの学生とのつながりも、今後も続いていくことを願っています。

川村先生とモット先生をはじめ国際課の皆様、メンバーと現地のメンバーはもちろん、関わっていただいたすべての皆様に気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

関わっていただいた全ての方々に感謝です！